

コマツ
2016年度第1四半期（4－6月）
決算説明会
【電話会議】

2016年7月28日(木)

コマツ出席者

代表取締役副社長(兼)CFO 藤塚 主夫
常務執行役員経営管理部長 稲垣 泰弘

I. 2016年度 第1四半期（4月-6月）決算の概要 <P3-P10>

- P4 : 2016年度第1四半期（4-6月）の概況
P5 : 2016年度第1四半期（4-6月）の各セグメント売上高と利益
P6-7 : <建設機械・車両> 2016年度第1四半期（4-6月）の状況
P8 : <リテールファイナンス> 2016年度第1四半期（4-6月）の状況
P9 : <産業機械他> 2016年度第1四半期（4-6月）の状況
P10 : 連結貸借対照表

II. <建設・鉱山機械> 需要推移と見通し <P11-P17>

- P12-17 : <建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し（全体及び地域別）

III. <建設・鉱山機械> 鉱山機械と部品の状況 <P18-P22>

- P19-20 : <建設・鉱山機械> 鉱山機械の状況
P21 : <建設・鉱山機械> 部品の売上高

参考資料 <P23-P30>

- P24-28 : 四半期毎の状況
P29-30 : BBレシオ〔受注/売上指数（6ヶ月）〕

I . 2016年度第1四半期決算の概要

- ・連結売上高は前年同期比▲12.7%減収の3,892億円。
- ・営業利益は前年同期比▲40.1%減益の297億円。売上高営業利益率は同▲3.4ポイント減の7.7%。
- ・純利益は前年同期比▲52.1%減益の155億円。
- ・大幅な減益となった要因は、①円高の影響、②販売量の減少、③再生部品の在庫の評価減、④中国でのリテールファイナンス債権の追加引き当て。(③と④は当四半期の特異要因)

金額単位：億円	2015年4-6月 ¥121.3/USD ¥133.0/EUR ¥19.6/RMB	2016年4-6月 ¥109.8/USD ¥124.3/EUR ¥16.9/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	4,461	3,892	▲568	▲12.7%
セグメント利益	496	290	▲206	▲41.5%
その他の営業収益（▲費用）	1	7	+6	-
営業利益	497	297	▲199	▲40.1%
売上高営業利益率	11.1%	7.7%	▲3.4ポイント	-
その他の収益（▲費用）	12	▲55	▲68	-
税引前純利益	509	242	▲267	▲52.5%
純利益*	325	155	▲169	▲52.1%

*米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

□為替レートは、1ドル:109.8円、1ユーロ:124.3円、1元:16.9円です。前年同期比で、円はドル、ユーロ、元に対して円高となりました。また、その他の通貨に対しても、同様に円高となりました。

□2016年度第1四半期の連結売上高は、前年比▲12.7%減収の3,892億円、営業利益は▲40.1%減益の297億円となりました。営業利益率は▲3.4ポイント減の7.7%です。

□純利益は▲52.1%減益の155億円です。

□大幅な減益の要因は、①円高の影響、②販売量の減少、③再生部品の在庫の評価減、④中国でのリテールファイナンス債権の追加引き当ての4つがあげられます。尚、③と④については当四半期の特異要因です。

- ・建設機械・車両部門の売上高は、▲12.0%減収の3,451億円。セグメント利益は▲37.8%減益の263億円。セグメント利益率も▲3.2ポイント悪化し、7.6%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、▲14.1%減収の118億円。セグメント利益は▲49.9%減益の18億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲22.3%減収の347億円。セグメント利益は▲47.8%減益の17億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

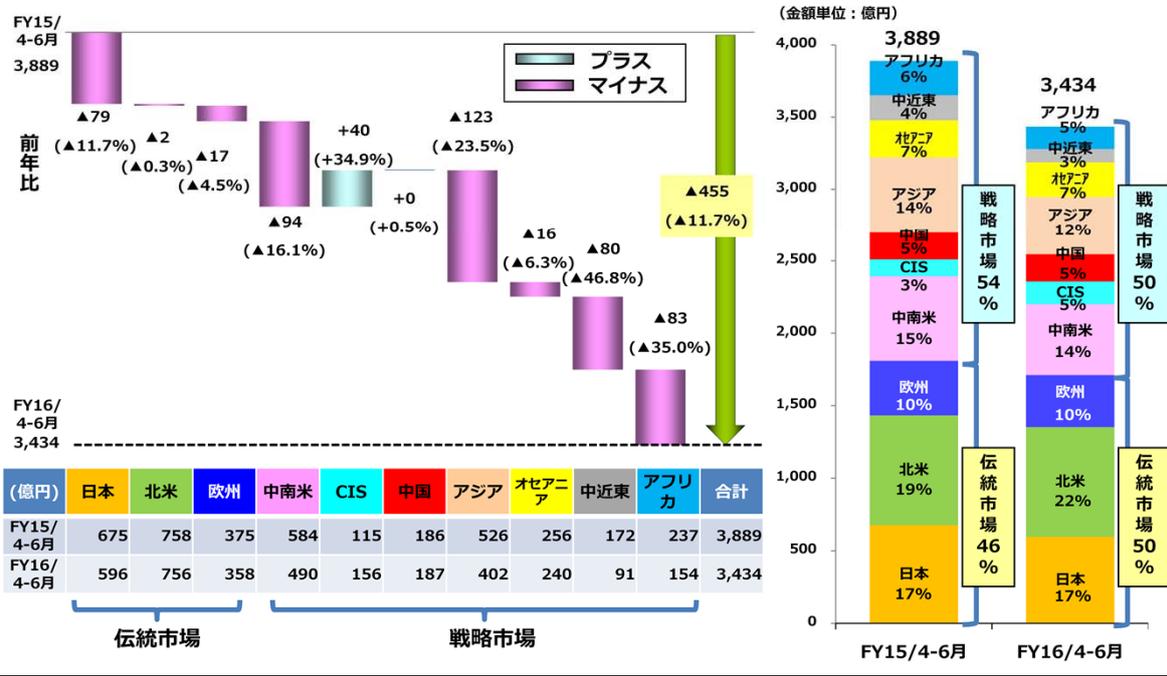
金額単位：億円	2015年4-6月		2016年4-6月		前年同期比	
					増減	増減率
売上高	4,461		3,892		▲568	▲12.7%
建設機械・車両	(3,889)	3,923	(3,434)	3,451	(▲455) ▲472	(▲11.7%) ▲12.0%
リテールファイナンス	(130)	138	(113)	118	(▲17) ▲19	(▲13.4%) ▲14.1%
産業機械他	(441)	447	(345)	347	(▲95) ▲99	(▲21.7%) ▲22.3%
消去	▲48		▲25		+22	-
セグメント利益	□11.1%	496	□7.5%	290	▲206	▲41.5%
建設機械・車両	□10.8%	424	□7.6%	263	▲160	▲37.8%
リテールファイナンス	□27.3%	37	□15.9%	18	▲18	▲49.9%
産業機械他	□7.3%	32	□4.9%	17	▲15	▲47.8%
消去または全社	1		▲9		▲11	-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
円高の影響と、戦略市場における販売量の減少等により、前年同期比で減収減益。
- リテールファイナンス【2016年度からリテールファイナンスを事業セグメントとして独立】
資産減少と、円高に加えて中国での引当金計上の影響もあり、前年同期比で減収減益。
- 産業機械他
鍛圧機械等の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、前年同期比で減収減益。
(※)2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

- 建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲12.0%減収の3,451億円、セグメント利益は▲37.8%減益の263億円となりました。円高の影響と、戦略市場における販売量の減少等が影響しました。
- リテールファイナンスについては、2016年度より建設機械・車両セグメントから独立しております。資産の減少と、円高の影響により売上高は前年同期比▲14.1%減収の118億円、セグメント利益は、主に中国で引当金の追加計上を行ったことにより、▲49.9%減益の18億円となりました。
- 産業機械他の売上高は、▲22.3%減収の347億円、セグメント利益は▲47.8%減益の17億円となりました。鍛圧機械等の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による減収が影響しました。

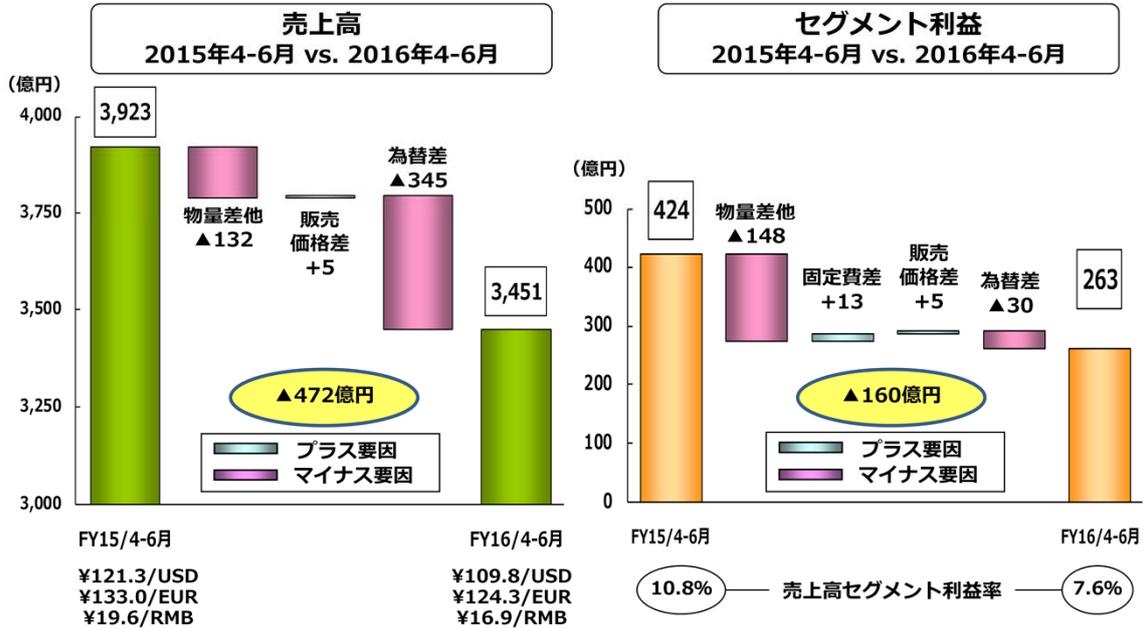
- ・外部顧客向け売上高は前年同期比▲11.7%減収の3,434億円。
- ・CISと中国を除く地域で、売上が減少。アジア・中南米等の戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が50%に増加。



□建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲11.7%減収の3,434億円となりました。

□CISと中国を除く地域で売上が減少しました。比率は、アジア・中南米等戦略市場における減少が大きく、伝統市場が50%に増加しました。

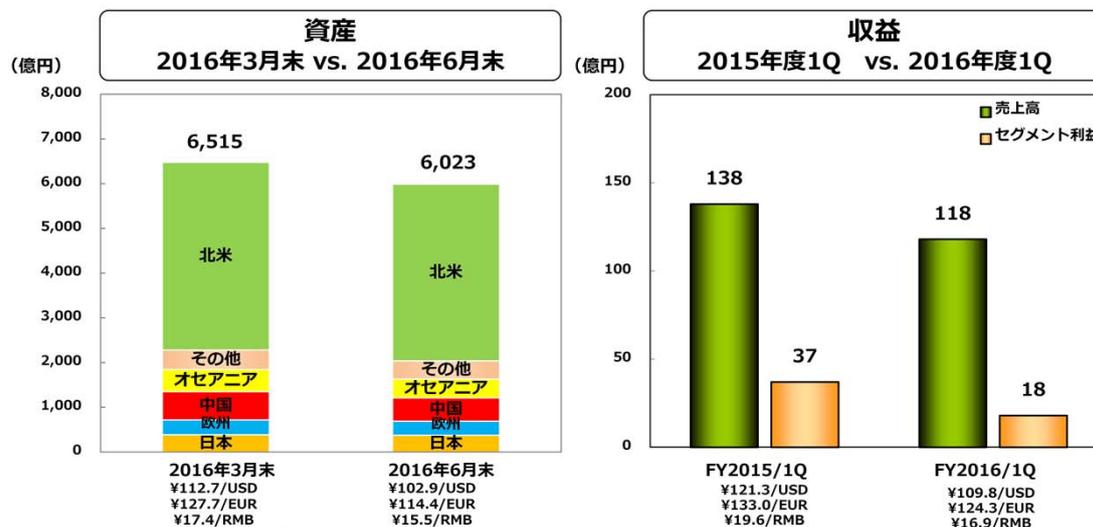
- ・円高の影響に加え、中近東・インドネシア等戦略市場での需要減少による物量減が大きく、売上高は前年同期比▲472億円の減収。セグメント利益も、同▲160億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比▲3.2ポイント悪化し7.6%。



□売上高は前年同期比▲472億円の減収です。円高による▲345億円のマイナス影響に加え、中近東・インドネシア等戦略市場での需要減少による物量減が影響しました。

□セグメント利益については、前年同期比▲160億円の減益、利益率は前年同期比▲3.2ポイント悪化し7.6%となりました。固定費の削減を行ったものの、円高と物量減等が影響しました。物量差他の内訳は、約1/3が純粋な物量差で、そのほかは、4ページにも記載しました再生部品の在庫の評価減などが要因となっております。

- ・資産は、円高の影響及び中国・オセアニア等での債権残高の減少により前年度末比▲492億円減少。
- ・利益は、主に中国で引当金を追加計上したことに伴い、前年同期比で減少。

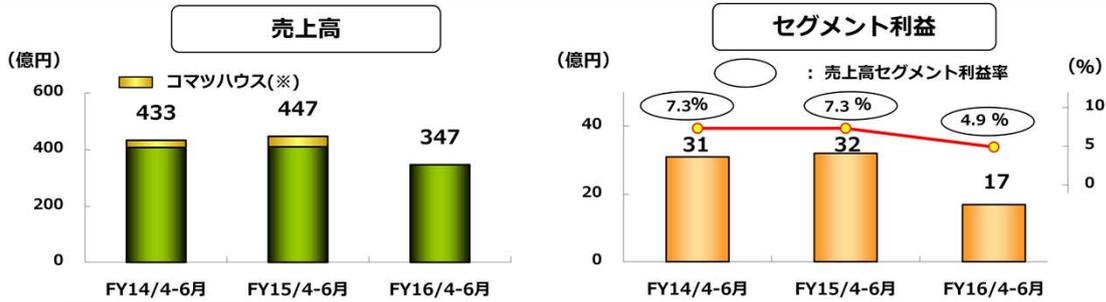


	2016/3E	2016/6E	増減
借入金	4,835	4,518	▲317
ネットベースの借入金	4,766	4,456	▲310
ネットD/Eレシオ	3.40	3.50	+0.10ポイント

□リテールファイナンスの総資産は、円高の影響及び中国・オセアニア等での債権残高の減少により前年度末比で▲492億円減少し、6,023億円となりました。円高の影響は▲564億円で、実質は+72億円増加しました。

□収益は、一部堅調な地域があったものの、円高の影響もあり、前年同期比で減収となりました。また、利益も、主に中国で引当金を追加計上したことにより、減益となりました。

・半導体業界の安定的な設備稼働に支えられギガフォンの売上げが堅調だったものの、鍛圧機械等の販売減少と旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、売上高は前年同期比▲22.3%減収の347億円、セグメント利益率は4.9%。



金額単位：億円	2014年 4-6月	2015年 4-6月	2016年 4-6月	前年同期比	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	133	128	77	▲51	▲39.8%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	167 [19]	140 [11]	126 [55]	▲13 [+44]	▲9.9% [+388.1%]
ギガフォン	65	83	85	+1	+2.2%
コマツハウス(※)	25	37	-	▲37	-
その他	41	58	58	+0	+1.2%
合計	433	447	347	▲99	▲22.3%

(※) 2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

□産業機械他部門は、半導体業界の安定的な設備稼働に支えられてギガフォンの売上げが堅調だったものの、鍛圧機械等の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による影響により、売上高は前年比▲22.3%減収の347億円となりました。

□セグメント利益は、売上減少の影響が響き、17億円、セグメント利益率は前年比で▲2.4ポイント減の4.9%となりました。

- ・ 総資産は、円高の影響及び受取手形・売掛金等の減少により、前年度末比で▲1,952億円の減少。
- ・ 株主資本比率は同+0.5ポイント増の58.5%。

(金額単位：億円)	2016年3月末 ¥112.7/USD ¥127.7/EUR ¥17.4/RMB	2016年6月末 ¥102.9/USD ¥114.4/EUR ¥15.5/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,084	1,082	▲2
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	8,753	7,683	▲1,069
棚卸資産	5,396	5,242	▲153
有形固定資産	6,977	6,562	▲414
その他資産	3,935	3,622	▲312
資産合計	26,146	24,194	▲1,952
支払手形・買掛金	2,054	1,870	▲183
借入金・社債 [b]	4,575	4,310	▲265
その他負債	3,639	3,232	▲406
負債合計	10,268	9,412	▲856
(株主資本比率)	(58.0%)	(58.5%)	(+0.5ポイント)
株主資本	15,174	14,145	▲1,028
非支配持分	703	635	▲68
負債及び純資産合計	26,146	24,194	▲1,952
↔ ネットの借入金・社債 [b-a]	3,490	3,227	▲263
ネットD/Eレシオ	0.23	0.23	

□ 総資産は前年度末比で、▲1,952億円減少しました。為替の影響が▲1,623億円あり、これを除けば、実質は▲329億円の減少です。

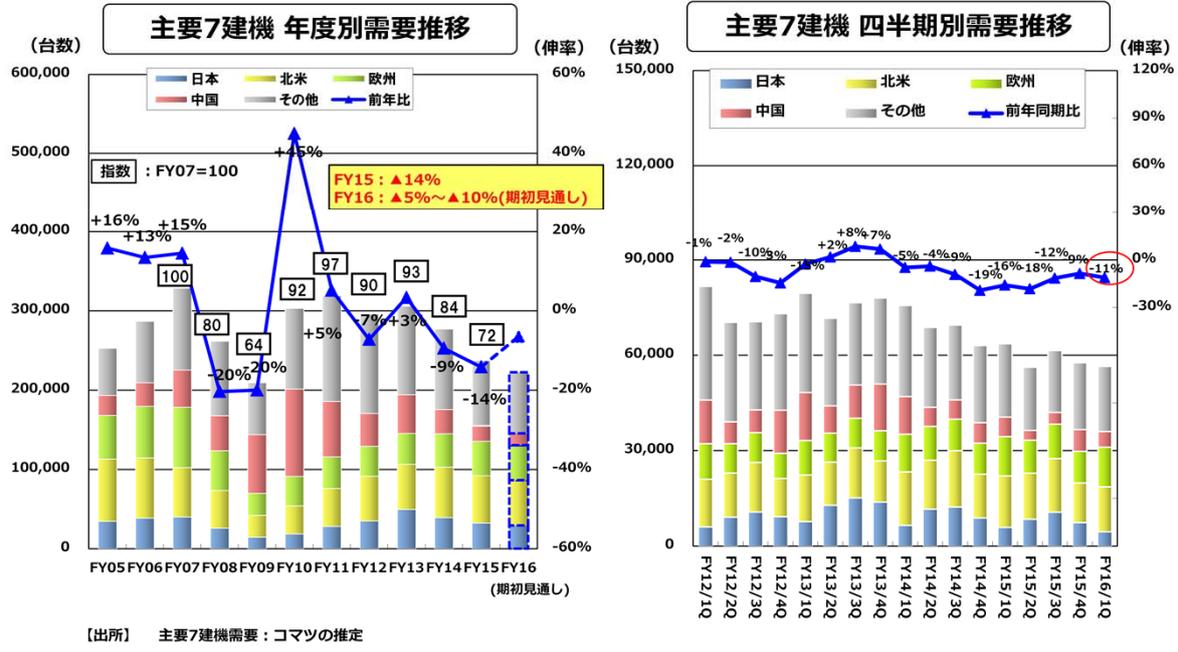
□ 受取手形・売掛金は、前年度末比で▲1,069億円減少しておりますが、そのうちの約半分強が為替の影響によります。

□ 借入金・社債は▲265億円減少しましたが、為替の影響が▲288億円含まれております。

□ 株主資本比率は同+0.5ポイント増の58.5%となりました。

II. <建設・鉱山機械> 需要推移と見通し

- ・2016年度第1四半期の需要は、前年同期比▲11%。
- ・一部堅調な地域はあるものの、日本、北米、中国、中近東、インドネシア等の需要減少が影響。
- ・年間の需要は、地域によって多少の上振れ、下振れがあるものの、全体として期初見通しから変更無し。

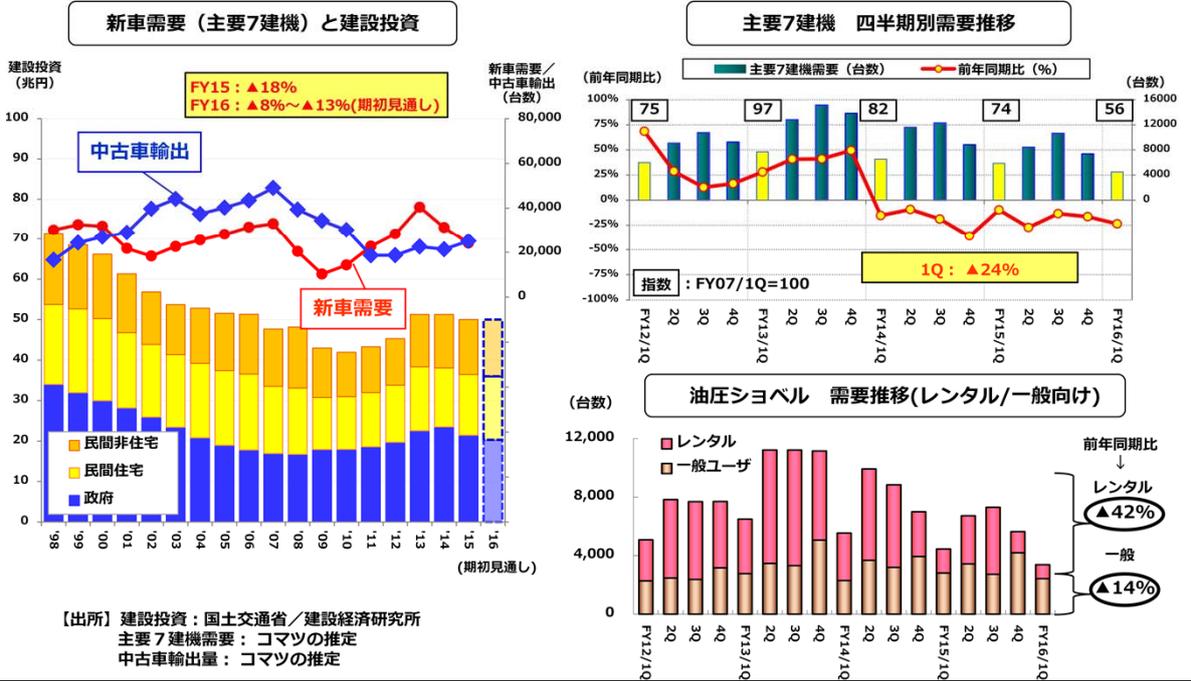


□2016年度第1四半期の世界需要は、前年同期比▲11%の減少となった模様です。

□一部堅調な地域はあるものの、日本、北米、中国、中近東およびインドネシア等の需要が減少しました。

□年間の需要は、地域によって多少の上振れ、下振れがあるものの、全体としては期初見通しから変更ございません。

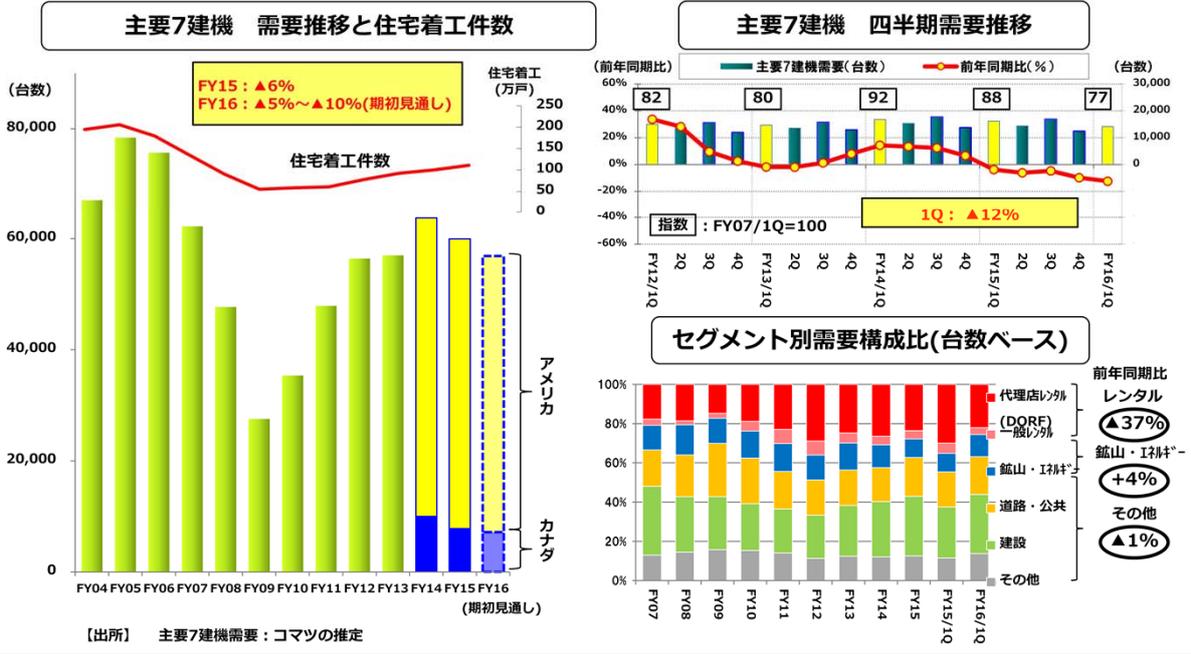
- ・2016年度第1四半期の需要は、前年同期比▲24%。
- ・レンタル向けを中心に排ガス規制関連の反動減が継続しています。



□2016年度第1四半期の日本の需要台数は、前年同期比▲24%減少しました。

□レンタル向けを中心に排ガス規制関連の反動減が継続しています。

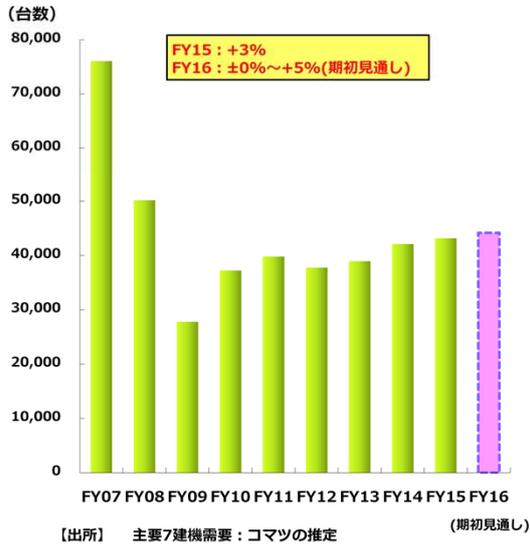
- ・2016年度第1四半期の需要は、前年同期比▲12%。
- ・アメリカにおいて、住宅市場の緩やかな増加を背景に、一般向け需要は堅調。一方、レンタル向けは低迷。
- ・カナダはエネルギー分野向けを中心に引き続き低迷。



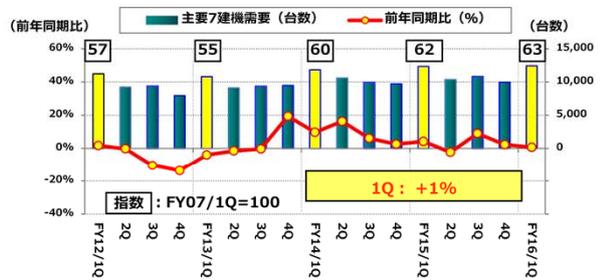
- 2016年度第1四半期の北米の需要は、前年同期比で▲12%減少しました。
- アメリカでは、住宅市場の緩やかな増加を背景に、一般向け需要は堅調です。一方、レンタル向けは低迷しました。
- カナダはエネルギー分野向けを中心に引き続き低迷しています。

- ・2016年度第1四半期の需要は、前年同期比+1%。
- ・ドイツを中心とした主要市場に加え、北欧・南欧も堅調でした。

主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



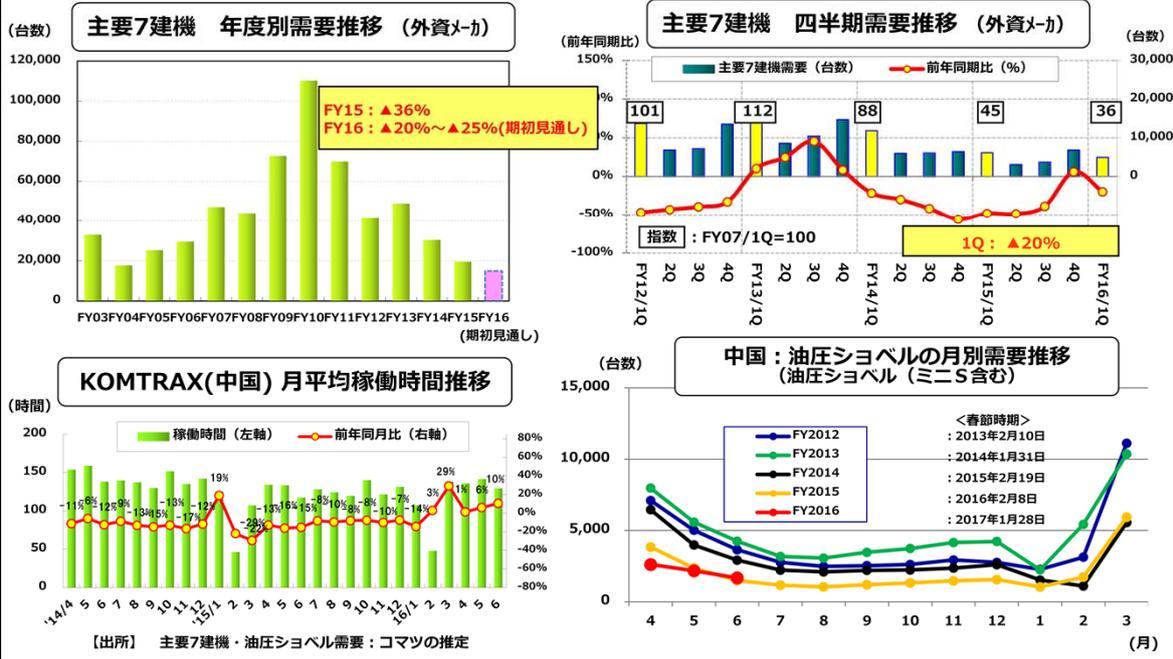
主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



□2016年度第1四半期の需要は、前年同期比+1%増加となった模様です。

□ドイツを中心とした主要市場に加え、北欧・南欧が堅調でした。

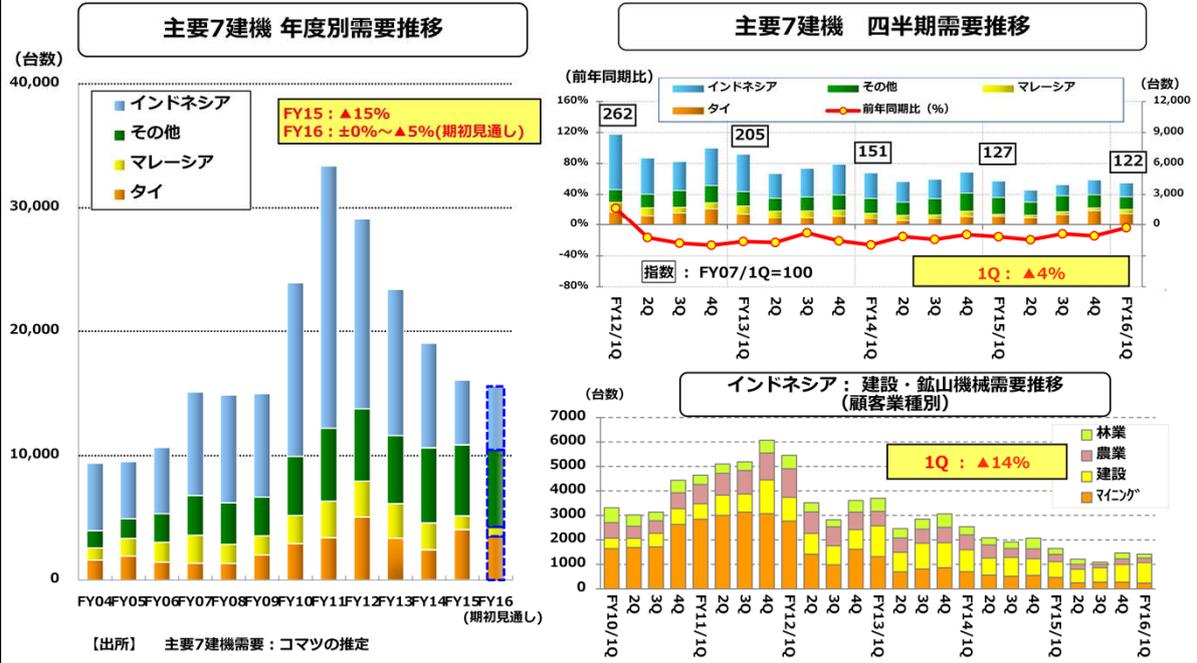
- ・ 2016年度第1四半期の需要は、前年同期比▲20%。
- ・ 年間の需要は、前年比マイナスとなる見通しですが、足元ではマイナス幅が縮小しており、車両の月平均稼働時間も前年同月比プラスが継続。



□2016年度第1四半期の中国の需要は、前年同期比▲20%の減少となりました。

□年間の需要見通しは、本年度もマイナスを想定しておりますが、足元では、マイナス幅が縮小しており、車両の月平均稼働時間もプラスが継続しております。

- ・ 2016年度第1四半期の需要は、前年同期比▲4%。
- ・ 最大市場のインドネシアでは低水準の需要が継続しているものの、タイ・マレーシアは堅調。



□ 2016年度第1四半期の東南アジアの需要は、前年比▲4%減少となりました。

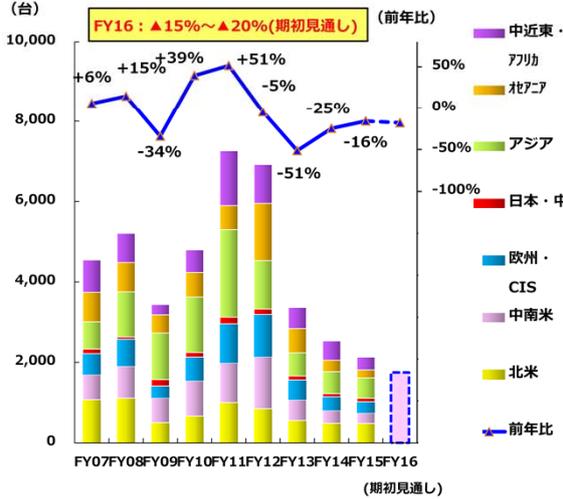
□ 最大市場のインドネシアでは低水準の需要が継続していますが、タイ・マレーシアは堅調です。

III. <建設・鉱山機械> 鉱山機械と部品の状況

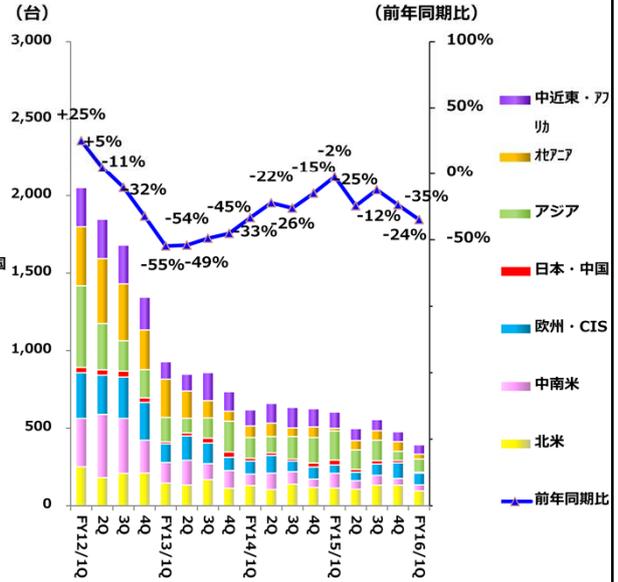
- ・2016年度第1四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比▲35%。
- ・年間の鉱山機械の需要は、期初見通しから変更無し。

鉱山機械 年度別需要推移

・タンクトラック：75 t (HD785) 以上 ・アムホーザ：525HP (D375) 以上
 ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイローダ：810HP (WA800) 以上
 ・モーターレーダ：280HP (GD825) 以上



鉱山機械 四半期別需要推移

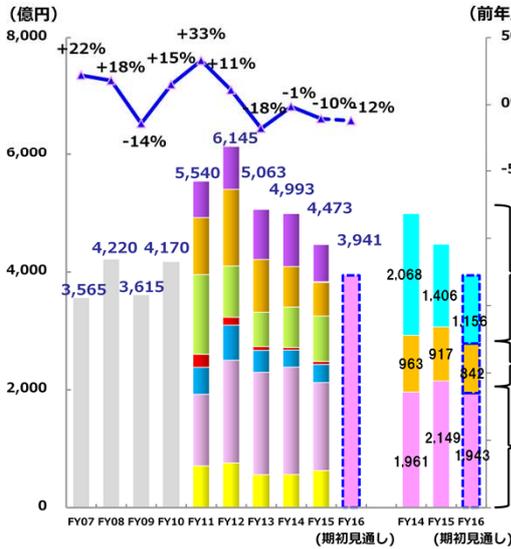


□2016年度第1四半期の鉱山機械の需要は前年同期比▲35%減となった模様です。

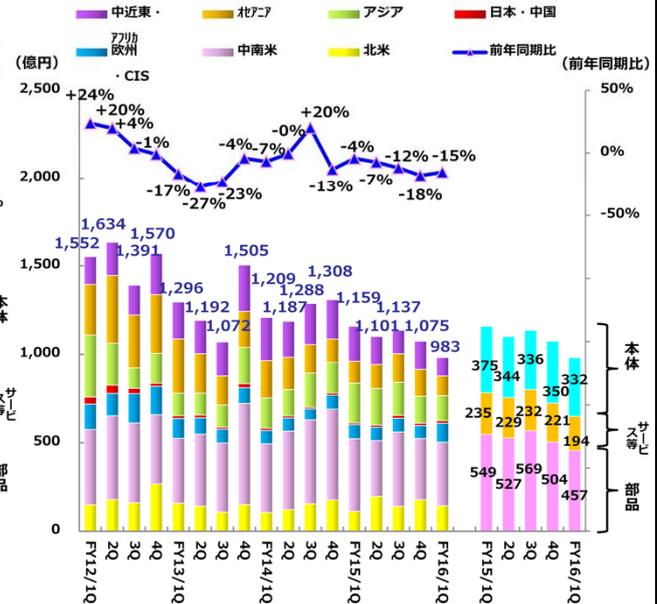
□需要全体の回復は2017年度以降になると考えており、2016年度の需要については、期初見通しから変更ございません。

・2016年度第1四半期の売上高は、円高の影響と部品売上の減少もあり、前年同期比▲15%減の983億円。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス含む)



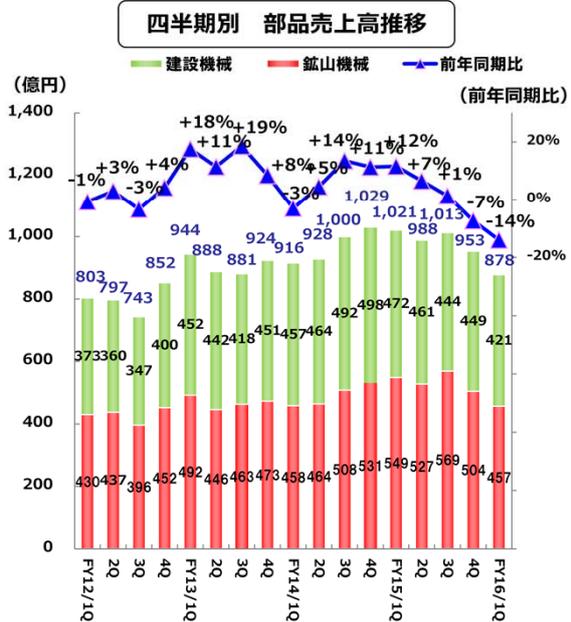
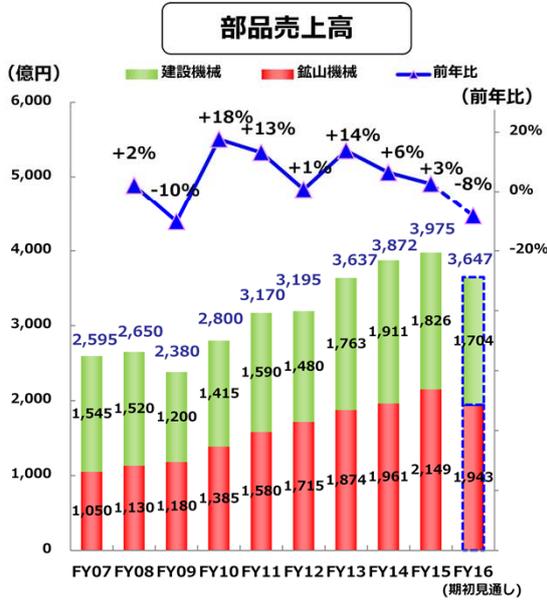
鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス含む)



□2016年度第1四半期の鉱山機械の売上高は、前年同期比▲15%減の983億円、為替の影響を除くと▲4%の減少となりました。

□鉱山機械本体の売上高は、為替の影響を除くと微増しましたが、一部地域での休車の増加やオーバーホールの延期などで、部品・サービスの売り上げは減少しています。

- ・ 2016年度第1四半期の部品売上高は、前年同期比▲14%。
- ・ 主に円高の影響と、稼働時間の伸びが鈍化したこと等により、部品売上が減少。



□ 2016年第1四半期の部品の売上高は、前年同期比▲14%の878億円、為替の影響を除くと▲4%減となりました。内訳は、一般建機が▲2%減、鉱山機械は▲6%減という状況です。



**【63kg級】日本代表
田代未来選手**



**【57kg級】台湾代表
連珍羚選手**

コマツ女子柔道部から、日本代表として63kg級の田代未来選手、台湾代表として57kg級の連珍羚選手がオリンピックに出場致します。両選手共に初出場となります。皆様、応援宜しくお願い致します。

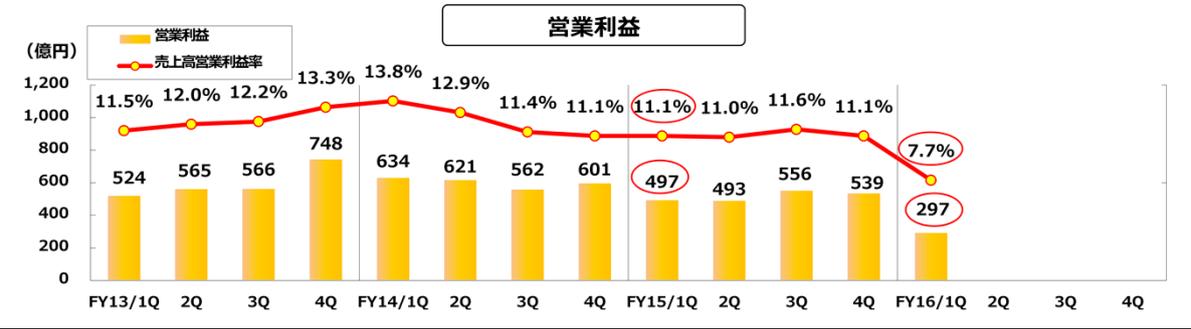
【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>

参考資料

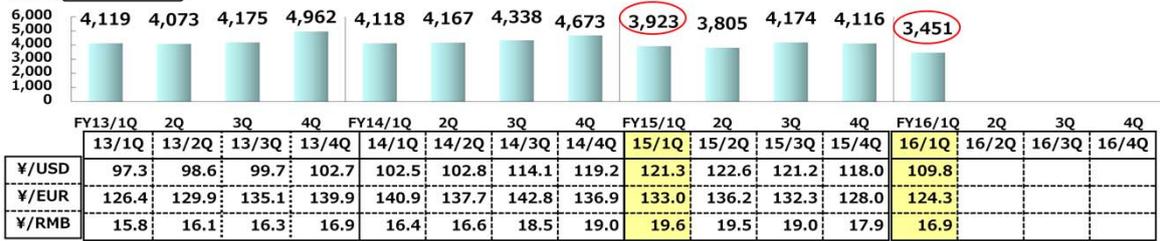
【参考資料】
四半期毎の売上高と営業利益の推移



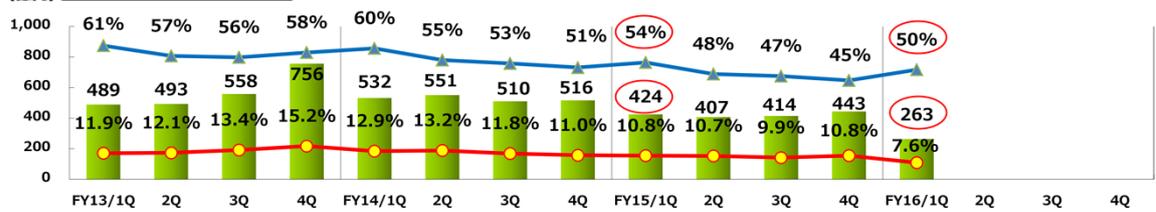
＜建設機械・車両（ファイナンス除く）＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

※ 2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれていたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致しました。過去も遡及して組替表示しております。

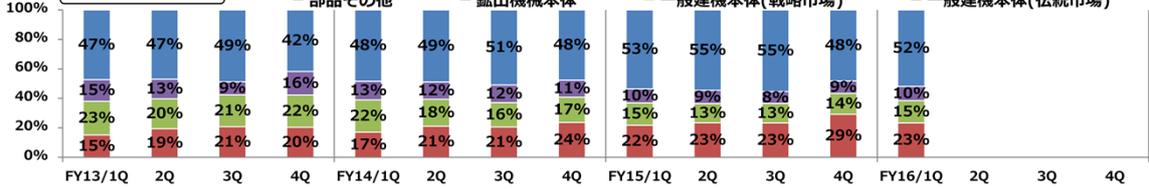
(億円) 売上高



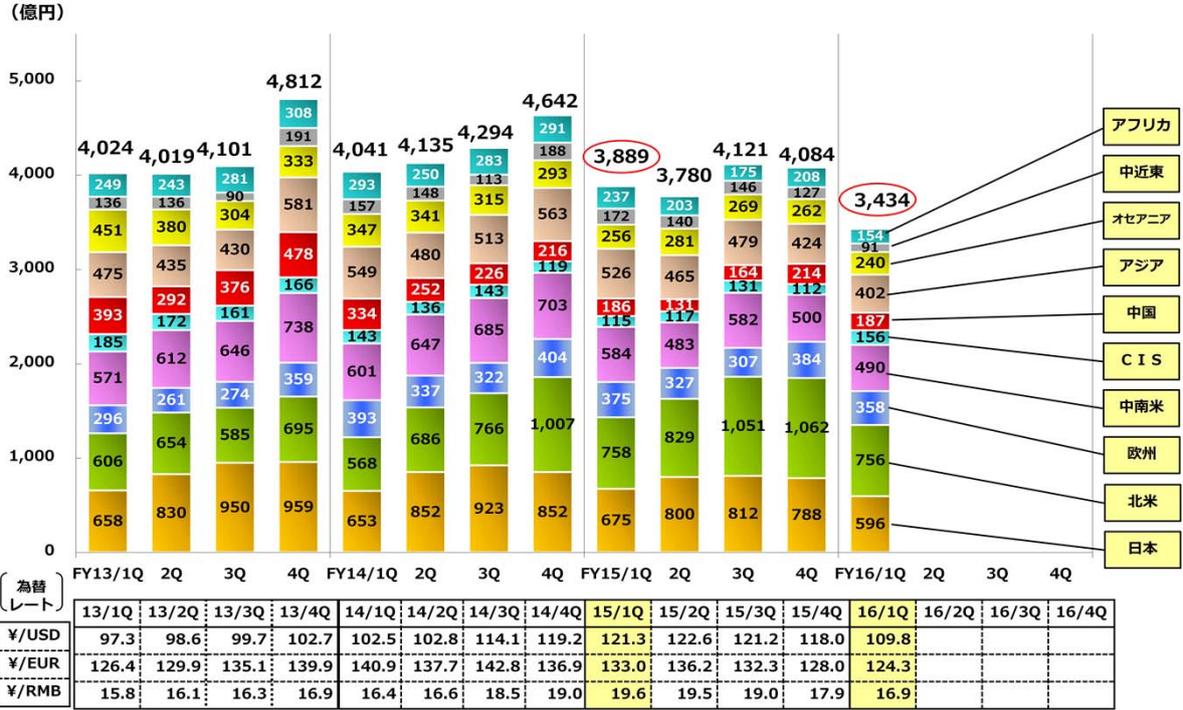
(億円) セグメント利益



売上高構成比



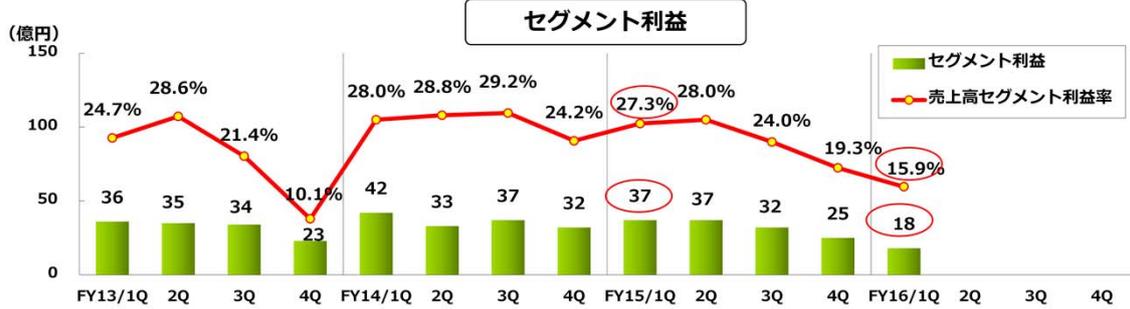
※ 2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれていたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致しました。過去も遡及して組替表示しております。





為替レート

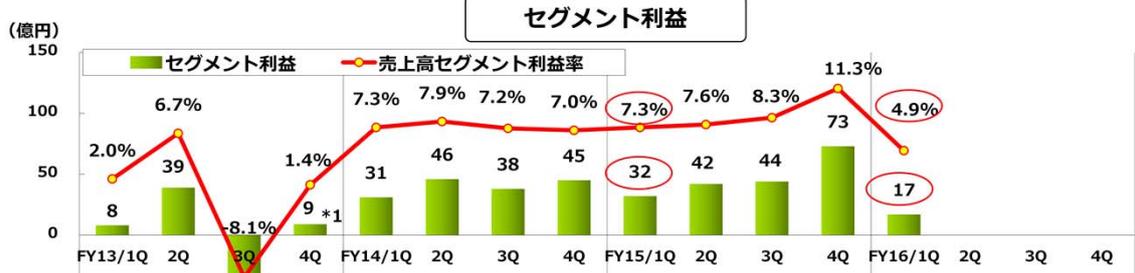
	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q
¥/USD	97.3	98.6	99.7	102.7	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8			
¥/EUR	126.4	129.9	135.1	139.9	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3			
¥/RMB	15.8	16.1	16.3	16.9	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9			



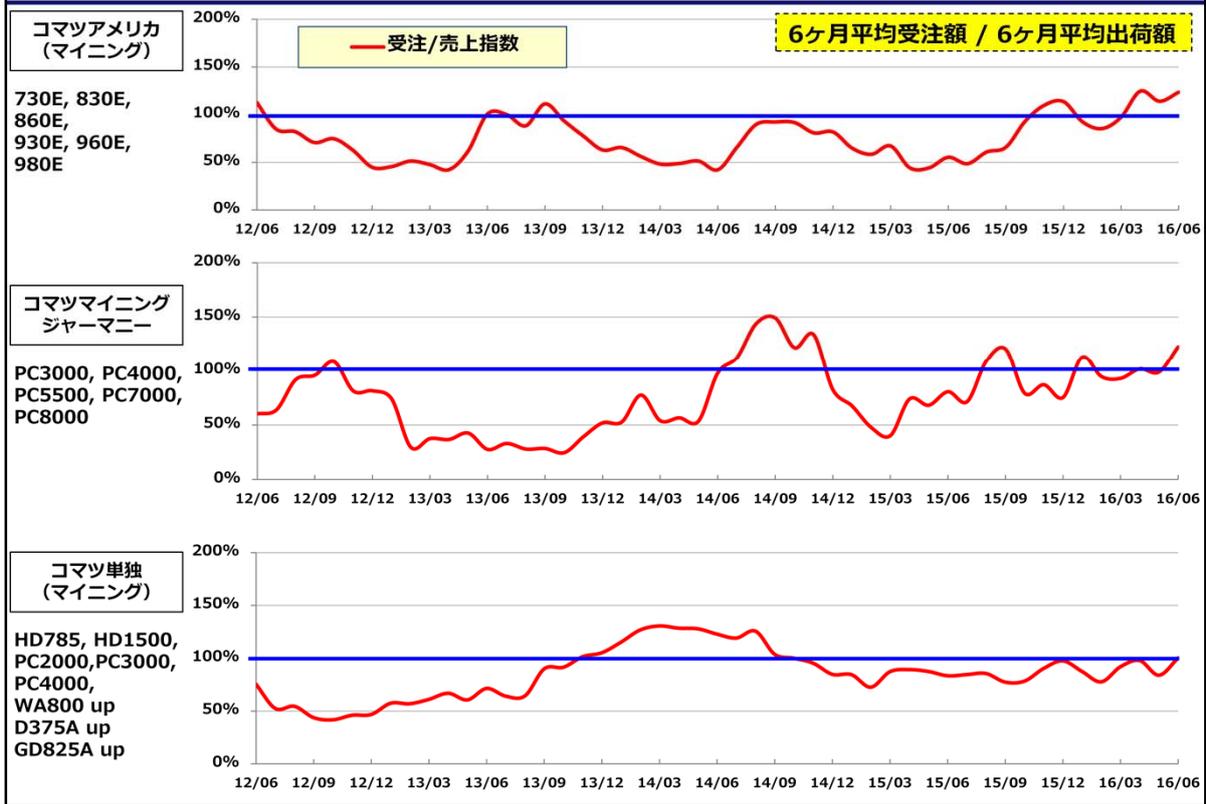


為替レート

	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q
¥/USD	97.3	98.6	99.7	102.7	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8			
¥/EUR	126.4	129.9	135.1	139.9	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3			
¥/RMB	15.8	16.1	16.3	16.9	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9			

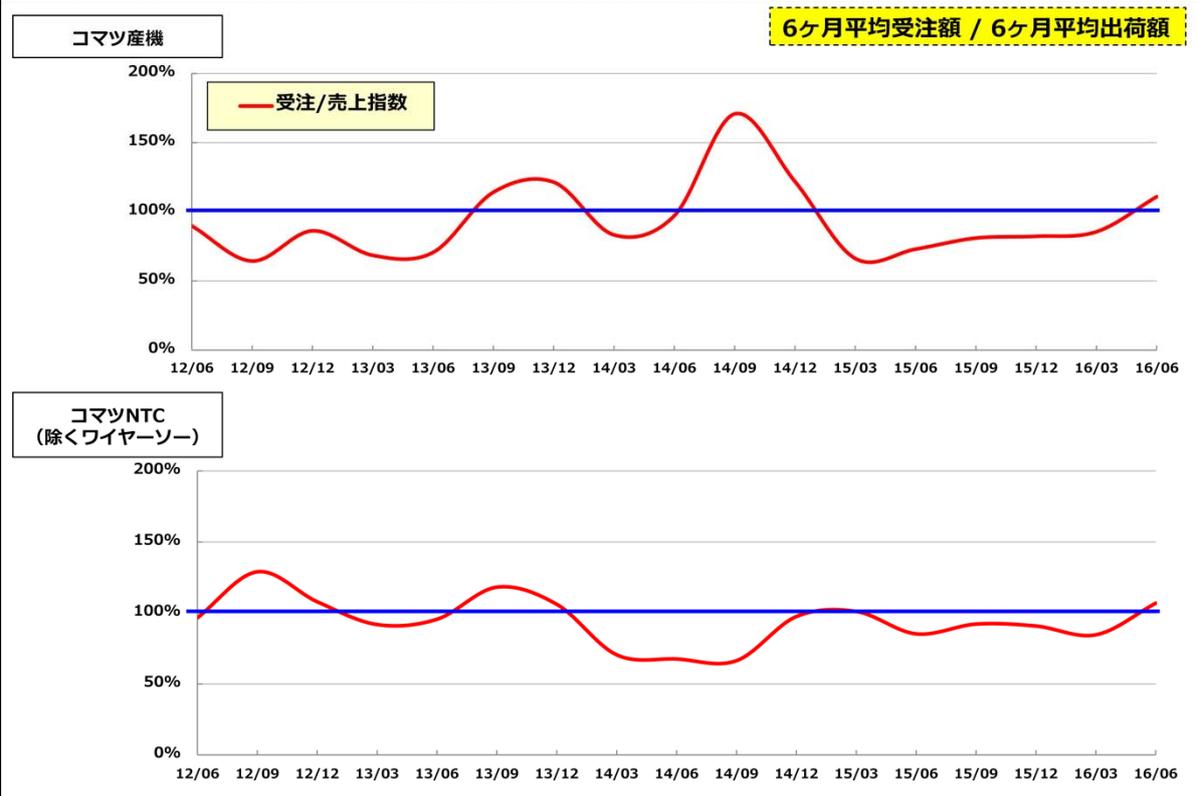


*1 コマツNTCにおけるワイヤソー在庫に係る損失を含む (FY13/3Q : ▲76億円、FY13/4Q : ▲32億円)



□ 鉱山機械新車の、受注と売上の指数の推移を示しております。

□ グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。



□産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。グラフは、直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。